

詩人になろう

「言葉をつなげて」（4年） 「気持ちを言葉に」（3年）

本単元で育成する資質・能力

思考力・表現力 主体性・積極性

1 児童観

本学級は、6年男子2名、4年女子1名の計3名の知的障害特別支援学級である。

学力に関する実態

- ・A児
多様な表現に関心があり、より適切な言葉や文章を考えようとする態度は見られる。しかし、語彙の不足と表現をする経験が少ないことから、表現力は十分に身につけているとは言えない。
- ・B児
型にはまった発表をしたり、誰かのまねをしたりすることはできるが、語彙が少なく、自分自身の物の見方をして自分なりに表現することは難しい。
- ・C児
自分なりの思いはある。しかし、理解できる言葉が極めて少なく、日常会話は2語文程度である。文章表現は難しい。

資質・能力に関する実態

本学級の3人の児童は、些細なことに動揺しやすい傾向にあり、自分から、言葉を通じてコミュニケーションをとろうとする主体性・積極性もちにくい。また、共通して語彙が不足している。日常を会話はするものの、出来事や体験を見つめ、自分にとっての意味や自分のもっている見方や考え方を表現する場面が少ない。これらことから、言葉を通じて、自分が経験したことや感じたことなどを積極的に表現するための、思考力・表現力に課題があると考えられる。

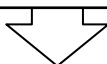
2 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「B 書くこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- B(1) ア 関心のあることから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。
ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。
オ 文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。

(1) 単元観

- ・A児
本単元は、日々の生活の中から自分なりの発見や感動を見つけ、そのときの気持ちが伝わるよう、言葉を考えて詩で表現する力を育てることをねらいとしている。
- ・B児
本単元は、友達と詩を作る活動を通して、1つの題から想像を広げて、つながりのある言葉を集め、詩にまとめる力を育てることをねらいとしている。
- ・C児
本単元は、友達と詩を作る活動を通して、1つの題から自分なりのイメージをもって、つながりのある言葉を使って、詩にまとめる力を育てることをねらいとしている。



(2) 指導観

- ・A児
詩を書く活動を通し、関心を持っていること、経験したり聞いたりしたことや知っていることから、自分の考えや思いを見つめ直し、そのことを言葉にして文章にする力を育てる。
- ・B児
連詩を書く活動を通し、つながりのある言葉に関心を持たせ、語彙を増やし、自分の思いに合う言葉で文章を書く力を育てる。
- ・C児
連詩を書く活動を通し、言葉からイメージを広げ、語彙を増やし、自分の思いに合う言葉で文章を書く力を育てる。

先生方と手紙のやりとりをすることで、自分の考えや思いを伝えようとする意欲を高める。また、言葉からイメージを広げたり、語彙を増やしたりすることと同時に、自分が経験したことや感じたことなどを見つめ直したり、深めたりしたことを言葉で表現することで、資質・能力の向上を図る。

(3) 単元でめざす児童の姿

- ・A児
 - 詩を書くために、進んで日々の生活の中で発見や感動を見つけようとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
 - 自分の思いや考えを言葉にして、詩を書いている。
(書くこと)
- ・B児
 - 連詩について関心を持ち、友達と作ろうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
 - 集めた言葉から、自分の気持ちに合う言葉を選び、友達と連詩を作っている。
(書くこと)
- ・C児
 - 連詩について関心を持ち、友達と作ろうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
 - 集めた言葉から、自分の気持ちに合う言葉を選び、友達と連詩を作っている。
(書くこと)

3 単元の評価規準

A児

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
単元の評価規準	○詩を作ることに興味をもち、詩を作るために題材を探そうとしている。	○そのときの様子や気持ちに合う言葉を選んだり、表現を工夫したりして詩を書いている。	○詩を書くために必要な語彙を増やし、適正に言葉が使えている。 ○効果的に例えるときの言葉を使っている。

B児

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
単元の評価規準	○連詩に興味をもち、連詩を作るための言葉を探そうとしている。	○集めた言葉の中から、言葉と言葉をつなげて連詩を作っている。	○連詩が題や前の連をもとにして作られること理解している。

C児

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
単元の評価規準	○連詩に興味をもち、題からイメージする言葉を探そうとしている。	○集めた言葉の中から、言葉と言葉をつなげて連詩を作っている。	○連詩が題や前の連をもとにして作られることを理解している。

4 本単元において育成しようとする資質・能力とのかかわり

出来事、経験や自分の思いを短い言葉でまとめて書き表す活動を通し、日常生活を見つめ直したり、自分のもっているものの見方や考え方を深めたりすることで思考力・表現力を育成する。また、自分の作品を振り返り、思ったことを発表することや、先生方と手紙のやり取りをする活動を通して、言葉を通じて積極的に自己表現する主体性・積極性も育成できると考える。

5 指導計画（全4時間）

A 児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>「きんもくせいに負けた」「とんぼ」を読み、感想を発表する。 自分の発見や感動や言葉を考えて詩に書くことを伝え、学習の見通しを理解させる。(1)</p>	<p>発見や、感動が書かれていることに気づいている。比喻表現「～みたい」「～のよう」など表現に工夫があることをとらえようとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	
<p>【本質的な問い】発見や感動が伝わるような詩を書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】感じたことをそのまま書いたり、見たものを何かにたとえて書いたりして、伝えたいことを詩に書こう。</p>			
二	<p>情報の収集</p> <p>自分の発見や感動から詩に書くことを選ぶ(1)</p> <p>整理・分析</p> <p>そのときの様子や気持ちを思い出す。(1)</p>	<p>自分の発見や感動をメモに書き出し、どんなことを伝えたいかを考えて題材を選ぼうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p> <p>見たこと、聞いたことなど五感で感じたことを書き出している。 感じたこと、思ったことを書き出す。 表現の工夫を考えて書いている。</p> <p>【書く】(ノート・行動観察)</p>	<p>自分が感じたり考えたりしたものから、必要な事柄や言葉を取捨選択したり、表現の工夫をしたりしている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート, 行動)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>伝えたいことを詩に書く。(1)(本時4/4)</p> <p>ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。</p>	<p>メモをもとに、感じたことをそのまま書いたり、見たものを何かにたとえて書いたりして、伝えたいことを詩に書いている。</p> <p>【書く】(詩)</p> <p>振り返りの視点</p> <p>① 発見や感動が伝わるような詩を書くにはどうすればいいか分かったこと、思ったこと。</p> <p>② 自分が気に入った表現</p>	<p>自分が書いたメモをもとに自分の伝えたいことを詩にまとめている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現している。</p> <p>【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>

B児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>連詩とほかの詩との違いについて気づく。 分担し、協力して詩を作っていく学習の見通しをもたせる。(1)</p>	<p>一つの題から想像して、何人かで言葉をつないでできていることに気こうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	
<p>【本質的な問い】言葉から想像を広げて、友達と詩を書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】 想像を広げて、題や前の連にかかっている言葉とつながりのある言葉で詩を書こう。</p>			
二	<p>情報の収集</p> <p>連詩を読んでどんな工夫がされているか考える。(1)</p> <p>整理・分析</p> <p>連詩の題や構成を決め、言葉集めをする。(1)</p>	<p>各連のつながりや表現の工夫など、連詩の特徴をとらえようとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p> <p>詩を書きやすいようにつながりのある言葉集めをしている。</p> <p>【書く】(ノート・行動観察)</p>	<p>連詩の特徴を捉え、題から連想される言葉をあつめている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート, 行動)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>友達と協力して連詩を作る。(1) (本時4/4)</p> <p>ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。</p>	<p>メモをもとに、言葉から想像を広げて、工夫しながらを連詩を作っている。</p> <p>【書く】(詩)</p> <p>振り返りの視点</p> <p>① 連詩について分かったこと, 思ったこと。</p> <p>② 自分が気に入った表現</p>	<p>自分が書いたメモをもとに、題に即して言葉を選び、語と語をつなげている</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現している。</p> <p>【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>

C児

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>連詩とほかの詩との違いについて気づく。 分担し、協力して詩を作っていく学習の見通しをもたせる。(1)</p>	<p>一つの題から想像して、何人かで言葉をつないでできていることに気こうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p>	
<p>【本質的な問い】言葉から想像を広げて、友達と詩を書くにはどうすればいいのだろう。</p> <p>【学習課題】 想像を広げて、題や前の連にかかっている言葉とつながりのある言葉で詩を書こう。</p>			
二	<p>情報の収集</p> <p>連詩を読んでどんな工夫がされているか考える。(1)</p> <p>整理・分析</p> <p>連詩の題や構成を決め、言葉集めをする。(1)</p>	<p>各連のつながりや表現の工夫など、連詩の特徴をとらえようとしている。</p> <p>【関・意・態】(ノート, 行動観察)</p> <p>詩を書きやすいようにつながりのある言葉集めをしている。</p> <p>【書く】(ノート・行動観察)</p>	<p>連詩の特徴を捉え、題から連想される言葉をあつめている。</p> <p>【思考力・表現力】(ノート, 行動)</p>
三	<p>まとめ・創造・表現</p> <p>友達と協力して連詩を作る。(1)(本時4/4)</p> <p>ふりかえり</p> <p>単元の学習を振り返る。</p>	<p>メモをもとに、言葉から想像を広げて、工夫しながらを連詩を作っている。</p> <p>【書く】(詩)</p> <p>振り返りの視点</p> <p>① きょうの学習でしたこと</p> <p>② 自分が気に入った表現</p>	<p>自分が書いたメモをもとに、題に即して言葉を選び、語と語をつなげている</p> <p>【思考力・表現力】(ノート)</p> <p>言葉を通じて積極的に人と関わり自己表現している。</p> <p>【主体性・積極性】(ノート, 行動観察)</p>

6 本時の展開(4/4時間)

(1) 本時の目標

- A児 発見や感動が伝わるように、言葉を考えて詩を書くことができる。【書く】
- B児 自分の気持ちに合う言葉を選び、言葉をつなげて友達と詩を作ることができる。【書く】
- C児 自分の気持ちに合う言葉を選び、言葉をつなげて友達と詩を作ることができる。【書く】

(2) 観点別評価規準

- A児 自分の感じたものや見たものを表すために、言葉を工夫して表している。【書く】
- B児 集めた言葉の中から、言葉のつながりを考えて言葉を選び友達と詩を作っている。【書く】
- C児 集めた言葉の中から、自分のイメージに合う言葉を選び友達と詩を作っている。【書く】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○)
<p>1 前時の学習を想起する。</p> <p>2 学習課題を設定し、方法を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習内容を想起させる。 <p>A児</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今日のめあて 発見や感動が伝わるように、言葉を考えて詩を書こう。</div> <p>B・C児</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">今日のめあて 自分の気持ちに合う言葉を選び、言葉をつなげて友達と詩を作ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の進め方の確認をする。 ・ 作った詩を発表することを伝える。 	
<p>3 各自で学習を進める。</p> <p>4 完成した詩を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分からないことは自分から質問させる。 ・ 詩を書くときのポイントを確認させる。 ◆ 質問しやすいように、質問コーナーを設ける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どんな様子や思いを伝えたかったかを伝えてから発表する。 ・ 読み方を工夫する。 	<p>A児</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 様子を適切に表す言葉を考えたり、自分の気持ちに気づき、表現を工夫したりして詩を書いている。 <p style="text-align: right;">【書く】(プリント)</p> <p>B児</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と協力して、集めた言葉の中から自分の気持ちにあう言葉を選び、連詩を作っている。 <p style="text-align: right;">【書く】(プリント)</p> <p>C児</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 言葉からイメージを広げ、友達と協力して、集めた言葉の中から言葉を選び、連詩を作っている。 <p style="text-align: right;">【書く】(プリント)</p>
<p>5 振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ノートやメモを見て、詩を書くときのポイントを確認させる。 <p>A児</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の思いや考えを上手く伝えることができたか。 ② 一番好きな表現 <p>B・C児</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 友達と詩を作ったことについての感想 ② 一番好きな表現 	